

koedo-kawagoe
OMOTENASHI

小江戸川越

おもてなし

特集
越えていこう、
川越



とき薫るまち 川越

小江戸川越観光協会

2021.WINTER



新春に期待をよせて

小江戸川越観光協会 会長
糸原恒久（蓮馨寺住職）

会員の皆様におかれましては、日頃より当協会に対しご理解、ご協力を賜り、篤く御礼申し上げます。

新年を迎え、今年こそは社会の情勢も改善活況し、再び光輝溢れる年となることを、皆様と共に心から願っております。

一昨年、川越は770万人以上の来訪者を数え、国際的にも31万人ものお客様を迎え、首都圏の観光地として全国レベルで注目される存在となりました。しかし、令和2年早春より拡大した新型コロナウイルスの蔓延によって観光振興の勢いが突如削がれ、来訪者も激減、特に4月以後は当市・霞ヶ関カンツリークラブでのゴルフ競技の延期をはじめ、春まつり、川越百万灯夏まつり、秋の川越まつり、小江戸川越ハーフマラ

ソン等、ビッグイベントが悉く中止となり、市民の皆様、経済界、観光関連の方々は、耐え難い重圧の中に置かれることとなりました。

そんな中、当観光協会では、市民の皆様、経済界、商店街のすべての方々が、少しでもその心を癒し、励まし合い、力強く復活復興への意欲を堅持していただくべく、「越えていこう、川越」プロジェクトを実施いたしました。商店の皆様、各企業や団体各位が独自の個性あふれるポスターやアピールを一齐に掲げることによって、心一つにしてこのコロナ禍という困難な状況を「越え」、復興への足がかりにいくことを目的とするものです。既に各方面から多大なご支持と賛意を賜り、予想を上まわる意識の高揚となって、効

果を発揮いたしております。この川越精神と皆様の心を結ぶ「絆」による一致団結によって、必ずやこの難状を越えてゆくことができる確信しております。

当協会はこれまで通り、市当局、商工会議所、商店街連合会様、市民の皆様と手を携え、地域の輪を広めつつ、県内各地の観光協会、関係各団体と密に連繋し、品格ある国際観光都市・川越を目指して、共に邁進していききたいと考えております。

再開予定のオリンピックゴルフ競技や、やがて来る市制百年の慶事祝祭等をも観光振興の糧としつつ、皆様のご協力のもとに、観光再活性に向け、さらなる努力を重ねてまいりたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。

このページは広告が入っておりました

koedo-kawagoe
OMOTENASHI
2021.WINTER

Contents

- 01 新春に期待をよせて
- 02 特集「越えていこう、川越」
江戸時代の苦難と復興／逆境にも負けなかった川越の偉人／
明治の生糸と時の鐘／川越・歴史諸想／寛永の大火と氷川祭
- 11 新入会員紹介
東武トップツアーズ／旅籠 小江戸や～Hatago COEDOYA～／やきとり おいちゃん
- 12 観光案内所の感染予防対策について
おもてなし information

越えていこう、川越

2020年、世界が未曾有の事態に陥り、一年が経過しようとしています。

川越市内も観光産業のみならず、大きな打撃を受け、今に至ります。

今号の「おもてなし」では、様々な角度から

川越が乗り越えてきた苦難の歴史などを振り返ります。

一丸となって復興への第一歩へ、未来へと歩んでいきたいと考えています。

越えていこう

「川を越えて、たどり着く」

川越という地名はその地形から名づけられた、
とされています。

周囲を川に囲まれた特徴を活かし、
この町の経済や文化は大いに発展しました。

しかし、私たちの先祖が「越え」たのは、

川ばかりではありません。

長い歴史の中で、いくつもの危機に見舞われながら、
その度に、力強く乗り「越え」てきたのです。

蔵造りの町並み・時の鐘・川越まつり。

どれも大火などの苦難を越えて、復興の証として生まれました。

私たちは思うのです。

かつてこの地に生きた先人たちと同じように、
かならず、今の困難を克服できるはず、と。

「越える」を地名に持つ「川越」ですから。

越えていこう、川越。

【主催】小江戸川越観光協会

【共催】川越市、川越商工会議所

「越えていこう、川越」という短いフ

レーズに、私たちはふたつの想いを込

めました。ひとつは、かつてこの地に

生きた先人たちと同じように、今日の

私たちもこの苦難を「越えて」いける

はずだ、という確信。もうひとつは、

コロナ禍が収束した暁には、ふたたび

「川を越えて」この街を訪れていただ

きたい、という願いです。先の見えな

い不安に包まれる時勢のなか、市内外

に向けて力強いメッセージを発信した

い、という取り組みに多くの皆様がお

力を添えてくださいました。

困難を越えたとき、川越はより強く、

魅力的な街になるはずです。活気を取

り戻した街に、多くの方が車で、車

で「川を越えて」訪れてくれることで

しよう。その日を心待ちにしつつ、街

全体でこの試練を「越えて」いけるこ

とを願うばかりです。



江戸時代の 苦難と復興

平安時代に創建された古刹・喜多院は、堂宇を三度、延焼しているという。さまざまな困難に直面しながら、その都度、甦ってきた歴史を喜多院・塩入秀知住職にうかがう。

兵火で焼ける

平安時代の天長7年（830）、慈覚大師円仁により創建されたと伝わる古刹、喜多院。

第59世喜多院住職の塩入秀知さんによれば、喜多院は何度も荒廃してきたという。

「記録に残る最も古い焼失は、鎌倉時代の元久2年（1205）のことです。兵乱で焼失し、ようやく永仁4年（1296）、伏見天皇の命で再興されました。この時、慈恵大師（元三大師）をお祀りし、関東天台の中心となりました」喜多院が「川越大師」とよばれるのは、慈恵大師をお祀りしているから。

慈恵大師の夜叉の形相をかたどったという「角大師」は、魔よけ・疫病よけの護符として知られる。

「戦国時代の天文6年（1537）。北条氏綱、上杉朝定の合戦で川越城が陥落し、このときの兵火で堂宇および典籍はことごとく焼失したと伝わっています。慶長4年（1599）に第27世住職となった天台僧正は、慶長16年（1611）、徳川家康公と接見します。喜多院は家康公の庇護を得、関東天台宗大本山として、寺勢を盛り返していきます」

堂塔伽藍が再建され、喜多院はかつての賑わいを取り戻す。

窮地は好機に

ところが寛永15年（1638）1月、「寛永大火」により、現存する山門（寛永9年建立）を除き、堂宇のすべてが焼失してしまふ。

「堂宇の焼失は、これで3度目です。しかも川越大火の時は、造って20数年です。落胆は大きかったことでしょう」

3代徳川家光は、すぐに川越藩主の堀田正盛に命じ復興に取りかかる。この時、江戸城紅葉山別殿を移築したのが、国重要文化財となっている客殿と書院だ。

「この時の資材を江戸から運び込んだのが、新河岸川の舟運のはじまりだと

されています。これによって河川の整備も進み、後の川越の発展を大いに助けました。悪いことばかりではなかったのです」

明治になると廃仏毀釈の波をかぶる。各地の寺院はこの時期、追い込まれていく。喜多院では五百羅漢の首が落とされた。

「困った僧侶たちは、大師信仰を周囲に広めるべく、行脚を始めます。これが、『川越大師』の名を広める契機になりました」

正月恒例のだるま市も新型コロナウイルスで中止となった。

「これを機に、新たな工夫をしています」

喜多院で領布されている護符「角大師」。

寛永16年（1639）にいちばやく再建された「慈恵堂」。

塩入秀知（しおいり・しゅうち）

第59世喜多院住職。平成13年より同職。ほか公益社団法人小江戸川越観光協会理事、川越市文化財保護協会顧問、川越市仏教会副会長、天台宗祖師先徳讃仰大法会事務局顧問、天台宗海外事業団評議員、天台宗埼玉教区布教師会副会長などを務める。



逆境にも 負けなかった 川越の偉人

製茶機械の発明家・高林謙三に、サツマイモの増収栽培法を広めた赤沢仁兵衛。明治時代の川越に生きた二人は、逆境のどん底からも立ち上がり、世のために尽くした偉人だった。

林謙三でした」

農家出身の謙三は、苦学の末、医師になり、川越に医院を開くにいった。川越藩主・松平大和守の抱え医となり医業は大盛況。明治になると茶園を開き、茶業も兼ねるようになった。

「手揉み製茶以上の品質を維持するよう茶作りの機械化を高林は決意します。53歳の時に特許2号を取ったのを皮切りに、次々と各種の製茶機を発明。その後、医業を廃業し、発明に専念します。ところがそれら機械の購入者から、自らの操作の不慣れでうまくいかず、不良品だとして返品が相次ぎます。さらに、火災で自宅全焼の憂き目に遭い、生活は極貧となります」

どん底である。

「高林は諦めませんでした。66歳で、素人の誰もが操作しても高品質な茶が作れる茶葉粗揉機を完成させ、静岡の工場で製造を始めます。現在の日本の製茶機は、高林式の原理が土台となっています。彼が日本のお茶産業に変革をもたらしたといえるでしょう」

サツマイモ増収法で成功

もうひとりの偉人が、川越の今福生まれの赤沢仁兵衛（1837～1920）だ。「赤沢家は、松平信綱の新田開発時に入植した古い農家ですが、仁兵衛が結婚した当時は借金まみれ。仁兵衛は一念発起し、甘藷（サツマイモ）作りで借金を返済しようと決意します。赤沢家の畑では、他にお金になる主力作物が

なかったのです」

苗床の作り方、種芋の選び方、畝の立て方……と栽培に関する全てを、昼夜を問わず徹底的に研究した。その結果、数年後には従来の栽培法に比べ2倍以上も収穫できる増収法を確立した。「収穫の多さを妬んだ者が、他人の畑から盗んだに違いない」と役所に訴え、取り調べをうけたこともあるんです」

その増収栽培法に、さらに磨きをかけ、借金まみれの貧農から、豪農へと転じた仁兵衛だが、その栽培法をひとり占めしなかった。

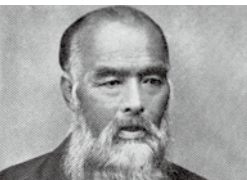
「請われれば誰にでも教え、後年には、農書『赤沢式甘藷実験栽培法』も出版。多くの農家のために尽くしました。逆境からの大逆転劇でした」

日本の製茶産業を変革

「川越の人達は、何度も逆境を乗り越えてきました」

川越の歴史にも詳しい山田英次さん（サツマイモまんが資料館長）は、その代表として明治期の二人の偉人をあげる。ひとりは、製茶機械を発明した高林謙三（1832～1901）だ。

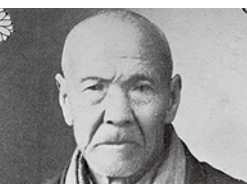
「お茶は、摘む、蒸す、揉む、乾燥させるという過程を経ますが、明治の頃はすべて手揉み作業で、お茶作りは重労働でした。開国したばかりの日本にとって、お茶は主力輸出品。生産性向上のために機械化が急務であった国家のため、何より強い志を抱いたのが高



近代製茶機の祖、高林謙三（1832～1901）



高林式茶葉粗揉機（高麗郷民俗資料館）



川越地方の「サツマイモ先生」赤沢仁兵衛（1837～1920）

山田英次（やまだ・えいじ）

サツマイモまんが資料館長、サン文化企画研究所代表、イラストライター。1982年より川越のサツマイモ文化保存の市民運動に関わる。川越いも友の会事務局長、川越サツマイモ商品振興会事務局などを務める。著書に『イラスト赤沢仁兵衛物語』など。



明治の生糸と時の鐘

時の鐘も焼き尽くした明治の「川越大火」。この復興の裏側には、奔走した川越商人たちの姿があったという。川越の町の人々の心意気を、時の鐘の再興にみる。

時の鐘再建

明治26年3月17日午後8時半頃、養寿院門前近くより出火した火は、折からのからっ風にあおられ、翌18日午前5時に鎮火するまで、1302戸を消失した。街全体の4割が焼ける甚大な被害だった。これが世にいう「川越大火」である。

「川越のシンボルの時の鐘ですが、実は、川越大火で全焼しているんです」川越の暮らしを聞き書きする町雑誌「小江戸ものがたり」編集発行人である藤井美登利さんによれば、この時、再建に尽力したのが、川越の生糸商人のネットワークだったのではないかと

いう。

「川越商業銀行を創設した竹谷兼吉ら川越商人や洪沢栄一・高田早苗らが寄付を集めています。この時、大口の寄付をしたのが、横浜の生糸商人たちでした。原善三郎、平沼専蔵（専三）、茂木惣兵衛らです。当時、茂木商店の番頭だったのが川越南町出身の安斎羊造でした。安斎家も全焼しています。ご子孫とお話する機会があったのですが、安斎さんが横浜で寄付集めに奔走したらしいということです」

当時の横浜港からの輸出品は、生糸が占めていた。「明治時代の川越は、物資の集積地でした。横浜開港資料館所蔵資料には、

川越・歴史諸想

水害、火事、地震、大風……。何度も災害に遭い、逆境に突き落とされながらも、そのたび復活をとげてきた川越とそこに暮らす人々。その歴史の一端を垣間見る。

明治天皇の鐘

「川越大火」の後日談に、もうひとつ、面白いエピソードがある。

教えてくれるのは、元川越市立博物館学芸員の宮原一郎さんだ。

「戦時中、全国各地のお寺の鐘や銅像が、武器を作るため、軍から供出命令を受けました。当然、時の鐘にもその命令が下ったのですが、難を逃れました。それは、川越大火に対する特賜金として、明治天皇より金一千五百円が下され、その一部が時の鐘再建の資金に使われたことを理由にしたためでした。川越の人たちが、時の鐘を大事にしたことがうかがえます」

災害からみる歴史

江戸時代を専門とする宮原さんによれば、川越は何度も災害にあいながら、そのたび、見事に復活を遂げてきたの

『武蔵川越大東商會』と印刷された生糸商標がありますので、川越からも多くの生糸が横浜に送られたのだでしょう。横浜の生糸商と川越の生糸商人との繋がりが、ここからも見えてきます」

大火と蔵造り

「誇らしいのは、集まった寄付金の3分の1を町の警備費、3分の1を消防機械費、残りを時の鐘の再建にあてたことです。川越の人たちが、まず時の鐘というのが嬉しいじゃないですか」川越の大火は、被害が大きかった反面、副産物も生み出した。

「当時の川越は織物業が盛んで、英国製の紡績糸で織らせた川越唐棧は江戸

「川越町焼失之図」川越市立博物館蔵



「武蔵三芳野名勝図絵」（川越市指定文化財）中島孝昌 享保元年（1801）個人蔵



藤井美登利（ふじい・みどり）

NPO川越きもの散歩代表。川越の暮らしを聞き書きする町雑誌「小江戸ものがたり」編集発行人。東京国際大学非常勤講師。さいたま絹文化研究会（秩父神社・高麗神社・川越水川神社）会報発行。『前橋・川越・横浜絹のものがたり』<https://silk-story.jimdo.free.com/>

だという。

「8代將軍吉宗の代、寛保2年（1742）に関東甲信越地方全域を『寛保の大洪水』が襲いました。埼玉県内に限って言えば、荒川と利根川が決壊。川越藩領内でも被害は28村に及び、96カ所の堤防が切れたと記されています」未曾有の洪水である。

「この時、立ち上がったのが武蔵国久下戸村（川越市大字久下戸）の名主、奥貫友山（1708〜1787）です。友山は私財をなげうって、周辺48カ村のおよそ10万人の人を救ったと言われ、1年間にわたり被災者を救済し続けま

した」

また、これらの川越災害などを記録した覚え書きも存在している。

「榎本弥左衛門（1625〜86）という江戸前期の川越の商人がいます。彼はいわゆる『榎本弥左衛門覚書』という、当時の川越や江戸の様子を記した記録を残しています。この記録では塩商人としての弥左衛門の活動もさることながら、彼が江戸でいわゆる明暦の大火で被災したことや、川越での水害・大風など、様々な災害に見舞われたことが記されています」

災害の影に川越の復活あり。



今なお残る幸町の蔵造り。



川越で代々町名主を務めた榎本家四代目・弥左衛門忠重の肖像。榎本隆一氏個人蔵

宮原一郎（みやはら・いちろう）

川越市教育委員会文化財保護課職員。



寛永の大火と 氷川祭

3代將軍徳川家光、4代家綱に仕え、「知恵伊豆」と称された幕閣・松平信綱。寛永大火という惨事をものともせず、町割と祭によって、信綱は川越の礎を築いていく。

寛永大火

埼玉県神社庁学芸員の高橋寛司さんによれば、今の川越を作ったのは、寛永大火と川越まつり（川越氷川祭）だといふ。

その主役は「知恵伊豆」と呼ばれた川越藩主・松平信綱だ。

「信綱は9歳で竹千代（のちの3代將軍家光）の小姓となります。家光が將軍になるのにあわせて幕府で出世していくのですが、その時、幕府のやりかたを信綱はつぶさに見ていました。そのひとつが祭です。幕府は江戸の拡大に併せて神田祭や山王祭を天下祭としますが、祭には古い住民と新しい住民を

融合し、町を組織化する効用があります。祭＝まちづくりなのです」

寛永15年（1638）、川越城や喜多院をはじめ、城下の大半が焼失する。寛永大火だ。

「老中首座となっていた信綱は、寛永大火の翌年に川越城主となります。しかしすぐに目立った動きはありません。頻繁に国替えがあるので、腰を据えられないのです」

高橋さんによれば、正保4年（1647）の加増が大きかったという。

「加増は、この地で確定したというサインです。信綱はこの時、祭の準備を開始しています。なぜならその翌年の慶安元年（1648）に、氷川神社に神

輿や祭礼道具を寄進しているからです。製作時間を考えれば、正保4年から動き始めたと考えていいでしょう。川越藩主になって真っ先に取り組んだことは、祭の準備だったのです」

祭の効用

ところが災難が続く。信綱が神輿を寄進した年に養父が死去。翌慶安2年（1649）は、慶安川越地震が起こり、町屋700軒が大破。江戸でも江戸城の石垣が壊れるなど、老中の信綱は対応に追われる。

「祭どころではありません。慶安3年によろやく川越城築造が始まり、町割りも固まっています。ところが慶安

山車の構造は二層の鉦と人形から成る江戸型が発展したもの。その優美で機能的なたたずまいは、まさに「絢爛豪華」。



文政9年（1826年）に描かれた「川越氷川祭礼絵巻」。

高橋寛司（たかはし・ひろし）

埼玉県神社庁学芸員。専門は民俗学。2000年4月から2003年3月まで川越市教育委員会川越氷川祭り調査委員会調査員として調査および『川越氷川祭りの山車行事 調査報告書・本文編』『第2章 川越氷川神社の歴史』『第4章 組織と行事』を執筆。

プロジェクトに 参加した皆様の声

本プロジェクトでは、多くの企業・団体・個人のみなさまにご参加いただきました。制作しましたポスターデザインは700種、延べ1600枚超になりました。ご賛同賜り、ありがとうございました。



ユニクス川越

苦しい状況から『守る』ことで精一杯でしたが、参画し『越える』という言葉を意識することで、今だからこそ出来ること、すべきことが見えてきました。



寿庵 蔵のまち店

市内全域での取り組みに参加する事ができ多種多様な市内各地でガンバル仲間達の存在を知る事ができて嬉しかったです！



川越スカラ座

「越えていこう、川越」プロジェクトに参加し改めて皆さんの川越愛に触れ、今後も世界の垣根を越えて人々の心に残る作品を上映し続けていきたいと強く思いました。



川越市立高階中学校 PTA

一斉休校で貴重な時間を奪われたのみならず、学校再開後も、思うに任せない学校生活を送る生徒たちを励まし、輝ける未来に目を向けてもらうために、応募しました。



芋掘り観光 山田園

このプロジェクトの趣旨に非常に感銘を受け、ぜひ協力したいと思い参加させていただきました。宣伝もでき、とても有意義なものだと思っています。

新入会員紹介



「安心・安全と最上のサービスで、期待を超える感動を創造します。ぜひ当社にお声がけください」



川越市脇田本町13-5
川越第一生命ビル5F
電話 049-257-4365
営業時間 9時30分～17時30分
定休日 土曜日・日曜日・祝日



「お一人様からカップル、ファミリーや6名～10名といった団体様にもご利用いただける和モダンを基調とした6つの部屋タイプを完備しております」



川越市連雀町8-1
電話 049-277-4901
チェックイン……16時～23時
チェックアウト……10時
HP hatago-coedoya.com
Instagram hatago_coedoya



「やきとり約20種類、お酒は100種類以上、一品料理も多数と、種類豊富にご用意しております」



川越市連雀町8-3
電話 049-203-1234
営業時間 11時～22時
定休日 火曜日、第2水曜日
Instagram yakitori_oichan

東武トップツアーズ

「人」を主人公・財産とし、「Warm Heart」がありがたの連鎖を「」を経営理念に掲げる「東武トップツアーズ」。「IC」で社会の利便性は向上しましたが、人が幸せを感じる社会を実現するカギは、やはり人と人との交錯し、新たな出会いを生み出す旅行・観光産業にあるのではないのでしょうか。川越から旅を通して日本を元気にしたいですね」と、埼玉西支店長の関根さん。川越駅西口から徒歩5分の東武トップツアーズで素敵な旅を探してみたいかがでしょうか。

旅籠 小江戸や ~Hatago COEDOYA~

江戸から令和へ、移りゆく時代を表現する小江戸川越に、2020年7月「旅籠 小江戸や ~Hatago COEDOYA~」がオープン。「本川越駅から徒歩8分、川越観光の中心地にも隣接というビジネスにも散策にも最適な立地で、国内外のお客様をお待ちしています」と、総支配人の藤原さん。お土産などを扱う売店のほか、1階には6店舗の飲食店が立ち並びフードコート「縁結び横丁」も併設。宿泊外でカフェやランチの利用も可能です。旅籠 小江戸やを起点に、川越散策をお楽しみください。

やきとり おいちゃん

2020年9月にオープンした、鮮度にこだわった焼き鳥と市場直送の鮮魚・お刺身を楽しめるお店「やきとり おいちゃん」。

活気のある店内では、店主の「おいちゃん」こと及川さんはじめスタッフの笑顔があふれています。「品質・鮮度にこだわったお肉のおいしさをご堪能ください」と及川さん。本川越から約8分、小江戸川越の蔵造りの町並みにもほど近く、焼き鳥はテイクアウトも可能です。川越散策帰りや仕事帰りに立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

新規会員募集中!

より良い街づくり、観光振興のために小江戸川越観光協会は新規会員を募集しております。会員の皆様からも積極的にご紹介いただけますと幸いです。

入会金及び年会費

- ☒ 入会金免除
- ☒ 年会費 10,000円以上 (2,000円/1口を5口以上)



約700の
デザインの
ポスターを作成!

「越えていこう、川越」 多くの皆様にご覧いただきました。

川越市内を中心に、埼玉県庁など関連の施設でも、「越えていこう、川越」のポスター掲示などを行いました。ご協力いただき、ありがとうございました。



場所「川越駅自由通路」
期間 令和2年9月4日(金)～11月13日(金)



場所「川越氷川神社」
期間 令和2年10月14日(水)～11月30日(月)



場所「まるまるひがしにほん 東日本連携センター 2階」
期間 令和2年10月16日(金)～10月18日(日)



場所「川越市立中央図書館 3階」
期間 令和2年9月23日(水)～

Concept movie

「川を越えて、たどりつく」本プロジェクトのメッセージをテーマに、川越市内を撮影した動画をYouTubeにて公開しています。中心部だけではなく、テーマである地域に流れる川の風景や、住む人のための商店街などをドローンなども使用し、撮影しました。ぜひご覧ください。



「越えていこう、川越」
コンセプトムービー
公開中!

観光案内所の 感染予防対策について

川越市内の各案内所（川越駅・本川越駅・札の辻・仲町）では、
新型コロナウイルスに関する対策を徹底しております。
ご協力を宜しくお願い申し上げます。

- お客様にマスクの着用をお願い
- 案内所内での密集防止
（長期滞在、混雑時の入所、大勢での入所は避けて頂く）
- ソーシャルディスタンスの徹底
- 換気の徹底
- 消毒の徹底
- 手指消毒液の設置
- 応対場所にパーテーションを設置
- 金銭授受はコイントレーを使用
- スタッフのマスク着用
- 体調が悪いスタッフの出勤制限



仲町観光案内所



札の辻観光案内所



本川越駅観光案内所



川越駅観光案内所

このページは広告が入っておりました

小江戸川越 おもてなし

令和3年1月15日 発行



発行 公益社団法人 小江戸川越観光協会
〒350-0062 埼玉県川越市元町1-15-8
TEL：049-227-8233
印刷 株式会社 櫻井印刷所

本誌は著作権法の保護を受けています。
内容を無断で転写、複製、転載することは禁じられています。

撮影 中里楓
デザイン 吉野博之
執筆 角山祥道 羽鳥幸子
編集 櫻井理恵
表紙およびP2-3写真提供 川越市広報課

《編集後記》

予想も出来なかったまさかのコロナ禍に見舞われた昨年、
国内の飲食業や観光全般が大きな打撃を受けました。市内の
さまざまな行事やイベントの中止も続いています。

これほど大きな感染症の拡大は私たちにとって初めての経
験でしたが、歴史を紐とけば今に活かせる多くの教訓が残っ
ているはずです。そこで今号では、川越の先人たちが乗り越
えた困難についての特集を組みました。インタビューにご協
力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

「越えていこう、川越」のキャッチコピーに込めた想いが
表わすように、川越は試練を克服するたびに強くなってきた
街です。まだまだウィズコロナが続くことも予想されますが、
会員皆さまとともに安全・安心なまち「川越」を構築し、以
前のような活気が一日でも早く戻ってくることを期待してお
ります。

（公社）小江戸川越観光協会 専務理事
根岸督好